

(様式1)

平成17年度 事務事業評価表

記入年月日	平成17年4月22日		記入者		内線	776-1262
部 名	生涯学習部	課 名	生涯学習課		課長名	佐藤
事務事業名	相模原市民ギャラリー運営費(学生企画展覧会開催経費)					
予算上の事務事業名	相模原市民ギャラリー運営費(学生企画展覧会経費)					
1 総合計画における位置づけ	施策コード		16110			
基本目標	「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして					
政策名	第6章 彩りのある市民文化を創造します					
基本施策名	第1節 多彩な市民文化の振興					事業開始年度
施策名	第1施策 豊かな市民文化の創造					平成13年度 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等						
相模原市立相模原市民ギャラリー条例・相模原市立相模原市民ギャラリー条例施行規則 ・美術専門員設置要項・相模原市立相模原市民ギャラリー運営協議会設置要綱						
3 個別計画の概要			概要			
計画名						
計画年次	年度～	年度				
4 事業形態の区分 啓発・広報・イベント ▼						
5 事業概要						
(1) 事業の目的(何のために行うのかまたはもたらしたい成果)					(2) 対象(誰、何)	
市民に優れた美術作品の鑑賞機会を提供することにより、本市の芸術文化のさらなる振興を図る機会とする。 (1) 美術系大学が周辺に多数立地する美術環境の利点を生かした美術展示の開催。 (2) 若い世代の活力ある創作活動の成果を広く市民に紹介する。 (3) 本事業を通して若い世代の美術愛好者の増加を図り芸術文化に対する意識の高揚を図る。					一般市民 大学生	
(3) 平成16年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
学生企画展の2期生が1年間をかけて企画・準備した展覧会「空のリレー」を開催。 展覧会名：空のリレー 会 期：平成16年8月1日～8月22日(実数19日間) 入場者数：1,512人(1日当79.6人) ワークショップ(工作教室) 2日開催(参加者47名)、 ギャラリートーク 4日開催(参加者81名) 出品作家：9人(多摩美術大学・東京造形大学・女子美術大学の学生作家) 作品数 19点 学生スタッフ：10人(多摩美術大学・東京造形大学・女子美術大学ほか)						
6 関連・類似事業や他市の状況						
本事業は周辺に複数の美術系大学が立地するという本市ならではの利点を生かしたうえ、事業の性格が美術スタッフの育成にあるということから他の市町村でもほとんど例がなく、比較することができない事業である。しかし、全国の美術関係者からの評価は非常に高い。						
7 事業費の推移 [単位：千円]						
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業費	676	178	788	703	890	
一般財源	676	178	788	703	890	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	0	0	0	0	0	
人件費の合計	1,679	2,937	2,959	2,959	2,959	
事業コスト合計(a)	2,355	3,115	3,747	3,662	3,849	
8 事業効率・・・(複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業)						
主たる事業名	学生企画展			対象名称(単位)	市民(人)	
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業コスト(主たる事業)	2,355	3,115	3,747	3,662	3,849	
対象数	610,000	620,000	620,000	620,000	620,000	
単位あたり経費(円)	4	5	6	6	6	
前年度比		1.30	1.20	0.98	1.05	

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化					
指標名 (単位)	1日当たりの平均入場者数 (人)	指標式と指標の説明	合計入場者数÷開催日数（平均入場者数の推移を見る。）		
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）
実績	1,027.0	-	1,512.0	-	
目標	18.0	-	19.0	-	18.0
目標達成度	57.06		79.58		
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標					
指標名 (単位)	学生数（人）	指標式と指標の説明	エキシビジョンプログラム（H13,15,17）はスタッフ数、展覧会（H14,16,18）はスタッフ数+出品作家数。スタッフ、出品者として参加した学生の推移を見る。		
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）
実績	16.0	10.0	19.0		
目標	16.0	20.0	19.0	20.0	30.0
目標達成度	100.0	50.0	100.0		
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 【A：効率が悪い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】					
無	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価					
(1) 自動判定結果					
	〔 〕：良好な状態を維持する事業				
	〔 〕：概ね良好な状況である事業				
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業				
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 担当課の課長による評価（今後の方向性）			(3) 課長の評価に関する説明		
拡充・充実	<input checked="" type="checkbox"/>	拡充・充実	地域性を生かした独自の事業、登竜門的意図に立脚した事業、将来作家や美術関係者の育成など、相模原市民ギャラリーの運営基本方針を具体化する事業として当該事業は基幹となるものであり、長期的展望にたつて育成支援すべき事業であると思料する。		
	<input type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策			14 課題として認識されたこと		
展覧会の内容は各回とも学生たちの意図するところに委ねられるが、官製ではない独創性に富んだ展覧会が可能であり、まったく新しい観覧者の獲得と入場者の増加・話題の提供などが期待できる。学生間の情報伝達に期待ができる。			本市の周辺には美術系大学が多く、そこには作家ばかりでなく美術プロデューサーやデザイナーを自覚している学生も多い。本事業に参加する学生たちは自発的に参加してきただけあって向学心と積極性に富み、将来が楽しみな学生が多い。長期的展望となるが、彼らの育成は間違いなく本市の芸術文化の振興に貢献するものである。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実	効果的な事業実施を推進する。		
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			